

ユニバーサルデザインを取り入れた、見やすい配色・文字組に配慮しています。

2014.
3-4

春

No.128

やわらぎ

INDEX

2 **特集** 「済生丸100」始動

メッセージ
副院長／塩出 純二

4 新病院の地鎮祭を行いました

5 カルテットだより
岡山済生会 備中荘

6 岡山済生会総合病院
ボランティア募集

8 ニュース&トピック

10 リポート&メッセージ

14 from SAISEI
済生会からご案内

基本方針7

福祉医療を重視するとともに医療施策をよく理解し、健全経営につとめます



岡山済生会総合病院

「済生丸100」始動 ～瀬戸内海の離島に暮らす人々の笑顔のために～

2ページ
特集



「済生丸100」始動

～瀬戸内海の離島に暮らす人々の笑顔のために～

「済生丸100」は瀬戸内海の離島を巡回診療している「済生丸」の4代目に当たります。済生会創立100周年の年に建造を決定したことなどから、通称を「済生丸100」としました。今後も離島の人々の健康を守るために活動します。

「済生丸100」就航披露式が行われました



● 瀬戸内海巡回診療事業推進事務所 武久 好恵

昨年4月8日の起工式から建造が進められていた4代目「済生丸」が、同8月8日の進水式を経て12月6日無事完成しました。新船での診療開始前に多くの皆様にその姿をご覧いただくこと、去る1月10日（新岡山港）と14日（笠岡港）に、「済生丸100」の就航披露式が行われました。

1月10日当日は、この冬一番の寒気が到来し、冷え込みの厳しい日でしたが、式典には、厚生労働省や岡山県知事、本部理事長をはじめ、多くの来賓の方々に、また、見学会には、国会議員や岡山県議会議員の方々にもお出いただきました。昨年「済生丸」をモチーフにしたドラマが放送されたこともあり、今まで以上に関心を持っていただいたようです。新岡山港で行われた就航披露式には一般の方も含めると100名以上の方が来られました。

当日は、OHKの淵本恭子アナウンサーが司会を快く引き受けてくださり、式典に花を添えてくださいました。はじめに、岡山県済生会の伊原木会長から挨拶を行い、金川造船などの造船業界や行政関係者の方々へ、

新船が無事完成したことへのお礼を申し上げます。そして「済生の心」と済生丸運営の理念を忘れず、円滑な運営と一層の安全運航に努める決意を述べました。

来賓のご挨拶では、厚生省医政局長のお言葉（田中 室長代読）や伊原木岡山県知事から『済生の心』を原動力とした済生会職員の絶え間ないご尽力に深く敬意を表します。また、離島医療に留まらず、研修や救援活動など大きな期待が寄せられています」とのお言葉をいただきました。

こうして式典は盛大なうちに終わり、船内見学会へと移りました。船体の大きさは三世号とほとんど変わりませんが、船内は広い廊下やエレベーター、バリアフリートイレなど小さな病院を感じさせます。待合室も広くなり、新しい機器がそれぞれの部屋に配備され、見学の皆様も感心しきりでした。

船内や会場では、おめでたい吉備の赤米で作った甘酒もふるまわれ、見学に来られた多くの方々に喜んでいただきました。



「済生丸100」が診療を開始しました



● 予防医学部健康事業課長 岡本 忠志

瀬戸内海の離島を対象にした国内唯一の診療船「済生丸」が23年ぶりに新造され、1月15日（水）から笠岡諸島の北木島を皮切りに、命をつなぐ航海に乗り出しました。3世号に代わって登場した新船は、乳がん検診用のマンモグラフィー、デジタル式のレントゲン設備を新たに搭載し、車椅子の人と介助者が乗れるエレベーターを設けるなどバリアフリーを施しています。“海をわたる病院”として長年島民に親しまれて、

求められている済生丸について、私たち済生会の役員は「済生の心」と済生丸運営の理念を忘れず、力を合わせ事業の円滑な運営と一層の安全航行に努めていきます。

また新船には1日3トンの塩水を真水に換えられる造水装置があり、今後予想される南海トラフ地震では被災地に医療班や医療物資などを届ける災害救援の役割も担います。



第一診療室



処置室



第二診療室（手前）・採血室（奥）



検査室



エレベーター&バリアフリートイレ



船内通路



乳房撮影装置



一般撮影装置



胃部透視撮影装置



第一待合室

